

和歌山県白浜町産と思われる変わった貝殻模様のヤクシマダカラ

久保田 信

はじめに

ヤクシマダカラ *Cypraea (Maurita) arabica asiatica* (Schilder & Schilder, 1939) (Gastropoda, Cypraeidae)は、本州の房総半島以南や小笠原群島などのインド-太平洋にかけての潮間帯から水深 20 m の岩礁やサンゴ礁に生息する（堀, 2000; 池田・淤見, 2007）。1998 年から 2014 年までの 16 年間にわたり、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する番所崎とそのすぐ東方に接続する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった多数のヤクシマダカラ（久保田・小山, 2002; 久保田・岸田, 2005; 久保田, 2012）は、全て朽本文様調の縦縞模様であった。しかし、これらとは一目で相違が分かる 1 個の貝殻が発見されたので記録する。

結果と考察

当該のヤクシマダカラの貝殻は、実験所研究棟の外来研究室内に数年前から置かれていたもので、実験所の利用者がこの付近で採取したものと推察される。貝殻は殻長 75 mm と大きいが、全体はまだ重厚になっておらず、軽く、亜成体である。ただし、殻口は成貝の様に比較的よく閉じ、スリット状となっている。殻表面の光沢はまだ残っており、側面の黒褐色斑が多数見られた。注目されるのは、白い丸い模様が全て大きく、全体に散らばって存在する点である（図 1 左右）。

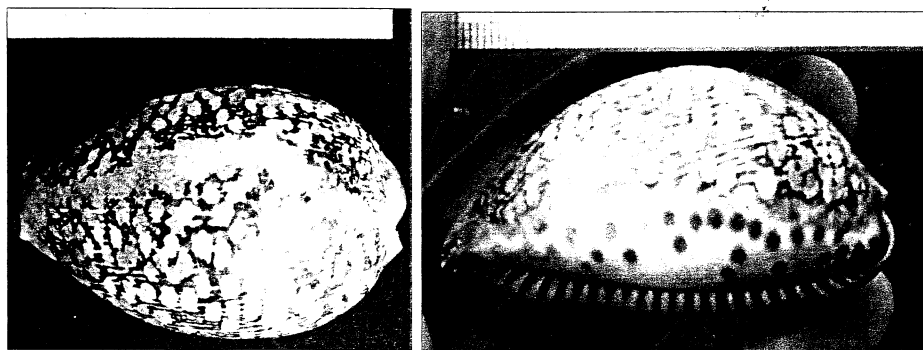


図 1. 和歌山県白浜町産と推察される変わった模様のヤクシマダカラ
（左：背面；右：側面）

本種の成貝の大きさは我が国産のものが殻長 29.1–86.3 mm と記録されているので（池田・淤見, 2007）、本個体は比較的大型の殻である。光沢もあったことから、表面が削れてこの様な変わった模様になったのではない。「このタイプの模様のヤクシマダカラは白浜町にも少数だが存在している。」との情報をタカラガイ類に詳しい白浜町在住の前岩 崇先生からご教示頂いたので、ここに深謝したい。

引用文献

- 堀 成夫. 2000. タカラガイ科. 奥谷喬司(編著)日本近海産貝類図鑑, pp. 224–239.
東海大学出版会, 東京.
- 池田 等・淤見慶宏. 2007. タカラガイ・ブック. 214 pp., 東京書籍, 東京.
- 久保田 信・小山安生. 2002. 番所崎, 特に”北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(1). 南紀生物, 44: 69–76.
- 久保田 信・岸田拓土. 2005. 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海”北浜”におけるヤクシマダカラ(タカラガイ科)の成貝貝殻の打ち上げ数の季節変化. 漂着物学会誌, 3: 48–49.
- 久保田 信. 2012. 和歌山県白浜町産ヤクシマダカラ(巻貝綱, タカラガイ科)の最大と最小の成貝. Molluscan Diversity, 3(2): 97–98.

くぼた しん (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)